２０２２年度
第８回 理事会議事録

２０２３年 1月 ２０日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

２０２２年度　第８回理事会議事録

１．日　　　時　　２０２３年 1月 ２０日（金）　１２：３０～１４：３０
２．場　　　所　　鉄鋼会館　８０２号室
３．構　成　員　　１４名
４．出席構成員　　１４名（別紙 出席者名簿参照）
５．議 事 次 第

(1) 開会の辞
(2) 定足数確認報告（定款第 36 条）
(3) 会長挨拶
(4) 前回理事会議事録の確認
(5) 審議事項
　第 1 号議案　鉄骨技術研究開発助成制度（継続）の件
　第 2 号議案　鉄骨技術研究開発テーマ（全構協実施型）可否の件
(6) 報告事項
　1) 特定技能外国人材への対応について
　2) 委員会等活動状況報告
　　① 中期ビジョン検討委員会
　　② 人材育成委員会
　　③ 創立 50 周年記念事業準備委員会
　　④ 技術委員会
　　⑤ 運営委員会
　　⑥ 技術者ＷＧ、技能者ＷＧ
　3) 「社長の右腕育成研修会」（主催：鉄骨技術者教育センター）について
　4) 支部の位置付け（税務、組織等）明確化について
　5) その他
　　① 青年部関連（事後アンケート）
　　② 委員会（ＷＧ）関係情報の管理について
　　③ 溶接施工ＷＧ勉強会について
(7) その他の定例報告事項
　1) 構成員登録状況
　2) 着工面積と推計鉄骨需要量
　3) 主要会議日程
　4) 支部報告
(8) 閉会の辞

６．議 事 要 旨

(1) 開会の辞

進行役の小貫専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

小貫専務理事より、本理事会は 14 名すべての理事が出席されており、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされていること、また、監事も 2 名全員に出席いただいていることが報告された。

(3) 会長挨拶

永井会長より「新年あけましておめでとうございます。本日も、皆さんのご協力をいただきながら、理事会の議論を進めて行きたいと考えていますので、よろしくお願いします。」との挨拶があった。

(4) 前回理事会議事録の確認

小貫専務理事が、第 7 回理事会の要点を読み上げ、確認、了承された。

(5) 審議事項

第１号議案：鉄骨技術研究開発助成制度（継続）の件

鉄骨技術研究開発助成制度に関して、制度継続可否及び運用規程の見直しについて新村技術部長より、議案書（P3-5）により以下の内容が説明された。

・本制度を 2023 年度以降も継続すること
・運用規程の見直しについて、
　① 助成金額については、「300 万円以内かつ総額の 2／3 以下とする」こと
　② 研究成果は、「全構協の構成員が利用できる資料として纏め対外発表する」こと

本議案に対する質問、意見等はなく、原案どおり承認された。

第２号議案：鉄骨技術研究開発テーマ（全構協実施型）可否の件

鉄骨技術研究開発テーマ（全構協実施型）可否について新村技術部長より、議案書（P6-12）により説明された。

本議案に対する質問、意見等はなく、原案どおり承認された。

(6) 報告事項

1) 特定技能外国人材への対応について

特定技能外国人材への対応について、議案書(p15-16)にそって平井総務部長より説明され、確認された。また、特定技能外国人材検討ＷＧのメンバーについても、報告があった。

尚、本内容については、同日開催される「全国理事長会」でも、説明が実施される旨報告があった。

2）委員会等活動状況報告

① 中期ビジョン検討委員会

11 月 16 日に開催された、「中期ビジョン検討委員会」について、議案書(p17-18)にそって大島副会長より説明され、確認された。

② 人材育成委員会

12 月 14 日に開催された、「人材育成委員会」について、議案書（p19)にそって総務部大原担当部長より説明され、確認された。

また、委員会の中で設置されている 2 つのＷＧの活動状況について、寺田リーダー、柏原リーダーより説明され、確認された。

また、仮称であったＷＧの名称については、「次世代経営研修ＷＧ」に決まったことが報告された。

③ 創立 50 周年記念事業準備委員会

「創立 50 周年記念事業準備委員会」について、議案書（p20)にそって総務部滝本課長より、以下の内容が説明され、確認された。

・記念式典・祝賀会については、開催方法、時間を含め検討を行っていること
・記念誌の特別企画座談会は、2 月 15 日実施を前提に準備を進めていること
・記念事業の業界 PR 映像については、12 月に募集を開始し、現時点 9 社から応募がきていること。今後、委員会にて選定を実施すること

④ 技術委員会

「技術委員会」について、議案書（p21)にそって佐藤理事より説明され、確認された。

⑤ 運営委員会

「運営委員会」については、議案書（p22)にそって、総務部中村担当部長より説明され、確認された。

⑥ 技術者ＷＧ、技能者ＷＧ

「（仮称）鉄骨技術者ＷＧ、（仮称）鉄骨技能者ＷＧ」のメンバーについて、議案書（p23)にそって小貫専務理事より説明され、確認された。

3）「社長の右腕育成研修会」（主催：鉄骨技術者教育センター）について

「社長の右腕育成研修会」（主催：鉄骨技術者教育センター）について、小貫専務より議案書（p24)に沿って説明され、以下の内容が確認、了承された。

・講習料については、費用の約半額、55,000 円（税込）を補助することとする。
・12 月末に募集を開始し、短い期間であったが、現時点 40 数名の応募をいただいている。募集に関して、尽力いただいたことに感謝申し上げる。
・第２回（3 月）分については、まだ人数的に余裕があり、2 月末締め切りで、追加募集を実施する。

・追加募集に際しては、各地域からの交通費負担の軽減を図り、教育を受ける機会を公平に提供するという目的で、参加者の交通費の半額相当額を補助することとしたい。本補助については、2月申込者、既に申込んでいる方を含め、適用することとする。

4）支部の位置付け（税務、組織等）明確化について

支部の位置付け（税務、組織等）明確化について、小貫専務より議案書(p25)に沿って説明され、以下の内容が確認された。

・本年 10 月のインボイス制度開始に向け、支部の税務的位置付けを整理する。
・合わせて、各地域における支部の責任と権限・役割について、状況の確認と整理を実施する。
・本件は全構協の事業運営に関わる全般的なテーマであることから、運営委員会に諮問することとしたい。
・尚、本テーマの検討スケジュールは、2024 年 3 月までを期限とするが、一方税務面については、インボイス制度のスタートである 2023 年 10 月を目途として、2 段階のステップで検討を行うものとする。

5）その他

①青年部関連（事後アンケート）

「青年部意見交換会事後アンケート」については、議案書（p26-31)にそって、小貫専務より説明され、確認された。

②委員会（ＷＧ）関係情報の管理について

「委員会（ＷＧ）等の内容に関する守秘義務の取扱い」については、議案書（p32)にそって、小貫専務より以下の内容が説明され、確認された。

・委員会(ＷＧ)の内容等に関して、「全構協理事会で報告され承認された事項、既に報告されている議事内容」については、支部等で報告可能とする。
・上記以外の事項は全て守秘義務の対象とし、報告も行わないこととする。
・尚、本内容については、同日開催される「全国理事長会」でも、説明が実施される旨報告があった。

③ 溶接施工ＷＧの勉強会について

溶接施工ＷＧ勉強会について新村技術部長より以下の内容が説明され、確認された。
本勉強会は、前回理事会時（11 月時）に、2023 年 1 - 3 月で開催することをご連絡していたが、対応する先生方のご都合等もあり、今年秋以降へ延期することとする。

(7) その他の定例報告事項

1) 構成員登録状況

2023 年 1 月 12 日時点の構成員数は、前回報告時(11 月 20 日)より 4 社減少し、2,188 社であること等が、議案書(p34-38)により報告された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

2022 年度 4 月から 11 月までの 8 ヶ月間の鉄骨需要量合計は、304.4 万ｔで、前年同期間の 96.4%となっている。今後の動向等に注視が必要な状況であること等が、議案書(p39)により報告された。

3) 主要会議日程

主要会議日程が、議案書(p40)により確認された。

4) 支部報告

〔九州〕

・支部の活動として、12 月に支部理事会、共済推進会議を実施。
・工事量は全体として変化なし、加工賃はやや上昇、見積りは低位、沖縄については苦戦継続。九州全体では大型中心に物件もあり、地域的な偏りはやや解消傾向。鋼材は高止まり状況が継続している。

〔四国〕

・支部の活動として、対面での活動が復活しつつある。
・手持ち工事量は変化なし、稼働率については、やや上昇傾向。
・見積り物件は少ない状況が継続しており、最低限の仕事を確保している。
・鋼材、消耗品等の値上がり分について転嫁をどう進めるか、採算面が課題。

〔中国〕

・Ｈグレードはバックオーダーを抱え概ね順調。一方、地元の小規模ファブは、物件が少なく厳しい状況継続。色々な仕事をしながら、何とか凌いでいる。
・物件で CLT の採用が加速している状況がある。公共工事のＳ造化の推進は、重要なテーマ。

〔近畿〕

・近畿地方整備局と意見交換を実施。資材高騰、人手不足等について協議。
・価格面では厳しい状況だが、何とか踏ん張っている状況。
・鋼材費については、やや落ち着きを見せているが、消耗品は軒並み高騰。

〔中部〕

・手持ち工事量、稼働率等、状況に大きな変化なし。工程ずれ、人手不足等課題あり。副資材の高騰等による、採算面の問題あり。

〔北陸〕
・活動的には、コロナ前の対面状態に戻りつつある状況。仕事的には、大きな変化はないが、地元物件は季節的な影響もあり、やや減少等、バラツキあり。地域全体としては、概ね堅調。
・諸物価高騰等のコストアップの中で、採算を確保することが課題。

〔関東〕
・工事量、稼働率、見積り状況に大きな変化なし。公共料金の値上げが、加工賃を圧迫している。今後の更なる電気料金値上げに対して、取組みが必要。
・特定技能外国人材、一次加工の納期問題等の課題が上がっている
・ゼネコンの物決め遅延の結果、製作工程の後ろずれ等の影響が出ている。問題解決に向けて検討が必要。

〔東北〕
・工事量、稼働率、見積り状況に大きな変化なし。
・着手前契約が確保されていない問題があり、関係先とも協議を行っていく。
・2024 年問題と言われているトラック（運転手）不足について懸念している。

〔北海道〕
・手持ち工事量、稼働率ともに大きな変化なし。但し、見積りは少ない状況。
・全体として物件はあるものの、今後の価格については不安材料あり。
・2030 年の新幹線、オリンピックについては不透明な状況。

(7) 閉会の辞

以上をもって、審議事項、報告事項、その他の定例報告事項等、予定された全ての事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以　上

（別　紙）

出 席 者 名 簿

会　　長	永　井	毅
副 会 長	大　島	嗣　雄
〃	大　竹	良　明
専務理事	小　貫	武
理　　事	佐　藤	正　記
〃	三　浦	隆　宏
〃	秋　山	順　一
〃	寺　田	健　信
〃	柏　原	正　明
〃	出　雲	津　芳
〃	妹　尾	一　人
〃	登　尾	昌　弘
〃	岩　永	洋　尚
理 事（相談役）	米　森	昭　夫
監　　事	村　上	眞　樹
〃	五 月 女	久　和

理事総数　１４名　うち出席者　１４名
監事総数　　２名　うち出席者　　２名